

「組合士フォーラム2012」開催

—メンタルヘルスと組合・組合士のできる
ことについて熱いディスカッションを展開—

去る6月22日、東京都港区のホテルインターコンチネンタル東京ベイにおいて、「組合士フォーラム2012」が開催された。今回のフォーラムは、「メンタルヘルス」をテーマにしたグループディスカッションが中心に据えられた。

メンタルヘルス分野で期待される組合士

グループディスカッションに先立って、「労務トラブルと組合士に期待される役割」と題して特定社会保険労務士の佐藤容右氏が講演を行った。佐藤氏は、なぜ、人事・労務トラブルに取り組むのか、トラブルの典型例と解決・予防法等について解説し、トラブルの解決や予防に当たる上で、「経営者と従業員の立場とそれぞれの違いがわかり、しかも法令や労務管理に関する知識を有し、他の複数の職場も知っている中小企業組合士は、いわ

ば外部・内部監査的な位置づけにある」と指摘し、「組合士がメンタルヘルスの分野で大いに役割を果たし得る」と組合士の可能性と期待を表明した。

身近なテーマ それだけに

佐藤講師から討議に向けて職場のメンタルヘルスの基礎的なお話しを伺った後、約90名の参加者が10のグループに分かれてグループディスカッションに入った。テーマは2つあり、1〜5班は「職場におけるメンタルヘルス対策の推進方法―組合、傘下企業での体制づくり―」について、6〜10班は「メンタルヘルスを考慮した職場のストレス軽減策―従業員のやる気、人間関係の向上策―」について90分にわたる討議が行われた。

当初は、「メンタルヘルスはなんだか難しそうだ」といった声もあったが、ひ



各班の報告者からの発表

とたび討議に入ると、労務問題としてのメンタルヘルスや、組合や傘下企業の置かれている現状や課題について、各参加者から自らの経験等が活発に紹介され、熱心な議論が各グループで重ねられた。

「メンタルチェック」は心の見える化

グループディスカッション後、各班の報告者から討議の内容と導き出した対策等について発表が行われた。「討議してみれば非常に身近なテーマで、それだけにとりまともに苦労した」と各班共通の「うれしい悲鳴」も聞かれたが、「業務の見える化を進めることで職場でのお互い

の立場、位置づけもよくわかるようになることが議論を通じてよく理解できるようになり、それによってお互いの気持ちもよくわかるようになるという意味では、メンタルヘルスのためのチェックを職場で行うことは、心の見える化でもあることがわかった。「メンタルヘルスについて、経営者、管理職、従業員それぞれへ向けた研修が必要であることを感じた。その実行へ向けて、組合の組合士としてメンタルヘルスと労務に関する知識を増やしたり、あるいは専門窓口の紹介ができるようになるなど準備を行いたい。組合員へ対してはメンタルヘルスを周知することで意識を持ってもらうようにしたい」といった有意義な意見が各班から寄せられた。

また、グループディスカッションのサポートに当たった、佐藤講師、特定社会保険労務士の資格を持つ田中猛北海道中小企業組合士会会長ら4名のコーディネーターからも、「組合士は何ができるのかという視点から、活発で明るい議論が行われたことがすばらしい」、「全国的に広がるメンタルヘルスという問題を捉える非常にいい機会だった。今日の議論がきっかけとなって組合としての対応につながることを期待する」といった講評が寄せられ、「組合士フォーラム2012」は盛況のうちに幕を閉じたのである。